

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374900237		
法人名	有限会社福祉館		
事業所名	グループホームゆりかご 1F		
所在地	愛知県日進市北新町南鶯514番地1		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町村受理日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2374900237-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、「QOLへの追求」をテーマに、「非薬物療法」認知症ケアを取り組んでいます。ユマニチュードの実践・作業療法として裁縫・塗り絵・折り紙・くもん学習・園芸クラブ活動・カラオケなど、ご入居様が気楽に参加頂き、一日を有意義に過ごして頂ける様支援しています。入居者様の周辺症状の発現も見受けられず穏やかな生活を営まれている事が成りよりの成果と思われま。また、隔月に開催される運営推進会議に於いてもそれらの報告を行っています。今年度は、全館リフォームを行い、入居者の皆様にゆったりと過ごせる空間がご提供出来ればと願っている次第です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの特徴的な取り組みとして、世間に一般に知られるようになる前から、ユマニチュードによる利用者への支援を基本に掲げる取り組みが行われている。ユマニチュードの基本的な考えを記載した貼り紙をホーム内に掲示しながら、職員が日常の支援を通じて意識する働きかけが行われており、合わせてホームの基本理念の実践にもつなげている。ホームのキッチンには専門の調理機材が整えられてあり、手作りのパンをはじめ様々な専門的な料理作りが行われており、利用者の楽しみにもつながっている。ホームの行事の際には、専門の方の協力を得た演奏会の取り組みが行われており、利用者の楽しみにつながる取り組みが行われている。なお、今年度はリビングや通路をはじめとして、大規模な改修作業が行われており、利用者がより快適に過ごすことができる環境の整備が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者がその人らしい人生を送れるようにその方の生活を支える事を理念に挙げスタッフ一同理解している。	利用者に安心、安全に過ごしてもらうことを目指した内容の理念を掲げており、職員が日常的に意識するように、管理者より伝えられている。また、ユマニチュードによる支援を重視していることで理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩で挨拶を交わしたり、花や野菜など分けて載っている。イベント案内は回覧板など地域役員の方にお願ひし、消防訓練・夏祭りなど地域の方にも参加を願ひ又地域からの招待など頂き良好な交流がある。	地域で行われている行事の際には、地域の子どもにお菓子等を振る舞う等の協力が行われており、地域の方との交流につなげている。また、地域の方がホームに訪問して演奏会を開いたり、近隣の方に夕食を提供する取り組みも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域へのホーム活動報告として、ゆりかご家族会発行するゆりかご新聞を回覧板にて配布し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月に運営推進会議開催し、家族会会長を議長とし区長・地域住民・包括支援センター職員・市職員・ホーム代表らと意見交換がなされ、毎回予定時間を過ぎる程の充実した会議を行われ、助言などには速やかに実践している。	会議の際には、運営状況を写真も活用しながら詳細を報告する取り組みが行われており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議の際には地域の方や市職員が出席しており、情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	中学校職場体験学習などの受入、随時市担当職員への相談及び指導を受けるなどして取り組んでいる。	市担当部署とは不明点等に関する意見交換を行いながら、ホームの運営につながる取り組みが行われている。また、市内の介護事業所も参加する作品展には、ホームからも作品を出品しており、協力関係につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全に生活を送って頂く為、かつ身体拘束をしないよう、勉強会でも取り上げ、スタッフ全員が理解を深めている。	ホーム内には施錠を行わない支援を基本に考えながら、利用者に合わせた対応につながるように、職員間での検討が行われている。また、管理者より、利用者に安心、安全に過ごしてもらうことを職員に伝えながら、職員の振り返りにもつながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム内での勉強会及び研修にも参加し、虐待防止意識高揚を図りに日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、利用されている人がみえ、管理者と係の担当者との連絡もスムーズに行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前にご本人ご家族が当ホームを見学され、納得できるよう説明をしている。また、ご本人がご訪問出来ない時は、こちらから家庭へ訪問し、面接をしてホーム内でも検討して相互理解をして入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	当ホームでは、家族会が発足されており、家族の要望、意見交換なども行っている。また、家族会発行する新聞などでも機会を設けそれらを運営に反映させている。	年間を通じて行われている行事の際に家族にも案内を行い、交流につなげている。法人代表者でもある管理者が日常的にホームに勤務していることもあり、家族からの要望等については、随時運営に反映できるように取り組んでいる。	家族会が主体となって行われていた便りの作成について、家族が入れ替わったこともあり、難しくなっている。ホームからの働きかけを継続しながら、家族とのより良い取り組みにつながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	改善及び提案など職員の意見として代表者・管理者に提言するなどしている。ミーティングなど送り時に管理者も参加しスタッフの意見を聞く場を作っている。	日常の申し送りの時間を活用したミーティングの取り組みが行われており、日常的に職員間で意見を交わす機会がつけられている。法人代表者でもある管理者が日常的に勤務しているが、現場のことは職員間で解決するように取り組んでいる。	現状、代表者がホーム全体の統括を行っているが、今後、新たな職員を加えて役割分担を行う意向でもある。ホームの新たな取り組みがホームの運営に反映されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正規・非正規労働者をバランス良く雇用し、各々主体性を持って従事できるよう整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内で週一回、勉強会を開催し、テーマは職員自ら懸案となっている課題等々について自主研修を実施し、社外研修も人数が許す限り順々に行っていて職員は報告書を提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県グループホーム連絡協議会などに参加し同業者と交流を図りネットワーク作り等々、勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入時期において、ホームへの見学を入居者ご本人並びにご家族にして頂き、不安な心に配慮し、観察する機会・時間を提供するなどした関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入段階に於いては、ご家族の要望などを聞き、「共にある」ということをお伝えし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入段階に於いては、ご本人並びにご家族が困惑し、不安の中での孤独感にさいなまれている状況を鑑み安心した生活が営まれるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	今まで普通に生活し、様々な体験をしてきた方々に、夫々の人生が有りプライドが有ります。そのご本人が背負っている人生をわかろうとする姿勢で話を聞く関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会、外出、外泊、通院への協力、イベントへの参加が継続できるよう毎月の家族への通信等(ゆりかご通信)を利用し働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご面会、ご友人のご面会や又こちらから住んでいた地域へ外出、外泊をして、友人達とコーヒーを飲んだり、行きつけの理美容院へと、職員並びにご家族の協力を得ながら継続が出来るよう努めている。	利用者により、入居前からの方と交流を継続している方や、行きつけの理美容に出かけている方もいる。また、利用者により家族と定期的に外出している方や自宅への外泊の方もおり、関係継続につながる取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は利用者同士間に入り、孤立しないようにまた、利用者間の互助精神が図れるようアクティビティケアを用いて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用(終了)が終了しても家族会の役員として参加されている。また、イベントの他、懇親会などへの参加呼び掛けを行って、相談助言など関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ライフレビューなどを促し、今までの人生を振り返り、評価しその意味を探索するなどして把握に努め検討している。	利用者に関する職員の把握については、職員全員で行うこととしている。日常的にも朝の申し送りの時間を活用したミーティングでの話し合いが行われており、意向等も含めた利用者に関する情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	回想を促し、人生の発達段階に沿った聞き取りを行うなど、一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面接やニーズアセスメントを進め、個性の再発見や社会的交流の力など、個人のフォローに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメント・カンファレンス・モニタリングなど機会を十分に活用し基礎的情報の拡大をもってケアプランに繋げている。	介護計画については、短期3か月、長期6か月での作成が行われており、6か月毎でのモニタリングと見直しが行われている。管理者が計画作成担当者でもあるため、家族との面談を行いながら、意向等が計画に反映できるように取り組んでいる。	介護計画について、職員間での共有が継続したテーマでもある。毎日行っているミーティングの時間も活用ながら、職員間で介護計画の内容の共有につながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録を細かく解り易く記録し情報を共有している。プランに沿って支援が出来るようカルテの中身の重視にも検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームとしての機能を最大限引き出した支援として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在、地域の方々にも認知され、四季折々の行事に双方向参加が実現し、近隣の散歩など住人の方がたの声掛けなど挨拶が交わされ地域に馴染んだ関係が構築出来つつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム嘱託医契約医師に週1度の往診を受けている。ご本人の希望で他のこれまでの医療機関を希望される方はご家族の協力も得て専門医へ通院をして頂いている。	現状、複数の医療機関と連携が行われており、協力医による訪問診療の他にも、状態の変化に合わせた受診等の支援が行われている。また、協力医療機関に在宅支援センターが開設されていることもあり、柔軟な支援が受けられる関係でもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の異変が見られた時や皮膚の状態とか処置等気付いた時、掛り付け医、ナースに報告し、急ぐ場合は電話にて連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム嘱託医契約医師による往診を行って頂いている。生活状況及び健康状態については随時実施しご利用者の容態変化に際しても入院・通院出来るよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、基本的には医療機関への入院を依頼している。	現状、ホームからは重度化に対応した指針等は掲げていないが、家族との話し合いを重ねながら、ホームでの看取りを見据えた支援にも対応している。実際に、協力医との連携を深めながら、ホームでの看取り支援も行われている。	ホームには重度の方も生活している現状もあり、職員研修の機会を増やす等、ホームの継続した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故や急変時に備えてスタッフ全員、勉強会を行ったり知識の習得に心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に4回消防訓練を実施し、避難経路確認・初期消火等設備機器などの取り扱いについて体験する。避難誘導時に於いては入居者は防災頭巾を着用するなどして訓練を行っている。訓練時は、家族会役員は全員参加し近隣住人の参加もある。	ホームでは、年3回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練の実施も行われている。ホーム内の改装を行ったこともあり、リビングや通路の整理が行われている。また、ホーム内に水や食料等の必要な備蓄品の確保も行われている。	地域の方との協力関係については、ホームの継続したテーマでもある。避難訓練については、運営推進会議でも写真も添えて報告されていることもあり、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇をもってご本人のプライバシーに配慮しつつ、ケア等を行っている。	理念にある安心、安全な環境をつくるためにも、ホームでは、ユマニチュードの考えによる支援に取り組んでおり、職員への指導や浸透に取り組んでいる。その上で、職員の対応等で管理者が気になった際には、注意を促すこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自己の意思を表に出し、出来るように個人に合った話し方に注意し思いや希望が聞けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合が、優先しないようになるべく個々のペースに合わせ支援できるように努めている。具体的には、朝起きて今日何を一日を有意義に過ごしたいかを利用者自身パネルに掲示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を取り入れ、美容院、理容院などへの外出支援を行っている。毎日、化粧をされている人もみえますので継続出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の好物などを聞き、食べやすい形で調理をして満足して食べて頂けるよう献立やおやつなど、楽しみのある、手作りの物の工夫。食事の準備、片付けが出来た人は一緒に行っている。自ら進んで参加して下さる人もいます。	食事については、スペースの関係もありホーム1階のキッチンで調理されている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。また、キッチンには業務用の専用の調理器具が備えられており、行事食等の提供に活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材には緑黄野菜、豆類、魚類等を多くメニューに取り入れるなど栄養バランスを考慮した食事を提供し、個々の水分、食事摂取量が把握できるようにカルテの利用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、歯磨きが出来た人は習慣化となっており、支援が必要な人はスタッフが介助して行い、ベットサイドで必要な人は個々に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせ、自立出来るようにトイレ誘導への援助を行っている。	利用者の身体状態に合わせた排泄支援が行われており、職員が把握した情報については、毎日の申し送りの時間に報告され、共有につなげている。医療面での連携を深めたり、職員の取り組みを通じて、利用者により排泄面で改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々、排便の状況を確認し、個々の排泄パターンや食事量摂取量を把握し内服の服用も行っている。また、薬だけに頼らない食物繊維を多く取り入れた食事に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日、時間帯はホーム側の都合により行っている。個々の希望に沿って入浴が望ましいと思われるが、現状厳しい面も考えられる。	入浴は週3回の午後の時間に行われている。1階の浴室には大きさの異なる2つの浴槽が設置されており、利用者の意向や身体状態に合わせた対応も可能である。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活パターンも違うので、体調を見ながら休息出来るように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬は何時でも見れるように保管されており、スタッフ全員把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	張りのある生活が送れるようにその人の出来る部分への支援を広げたり生活歴を活かし編み物その他への楽しみが活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿って、支援が出来るよう工夫をしている。ご家族の協力を得て、外出等の支援協力を得ている。	ホームから日常的に外出することができるように、ホーム周辺の散歩をはじめ、地域の行事への参加等の外出支援が行われている。また、事前に外出計画を立てながら、県外への日帰り旅行に出かける取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持は個々の管理としている。使うことの支援については理美容院等への外出支援はスタッフと一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	通信手段は電話が主である、ダイヤル等操作出来ない人には代わってスタッフが支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾り付けを工夫している。光・温度・湿度にも毎日注意を払い環境整備を行っている。	今年度、ホームのリビングをはじめとする共用空間の改装が行われており、リビングの調度類も取り替えられ、利用者が過ごしやすい環境面での取り組みが行われている。また、季節に合わせた飾り付け等の配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアにソファを置いて、利用者が寛げる空間造りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の習慣となっているもの、寝具・枕など使い慣れた物の持ち込みをしてもらい居心地よく過ごせるようにしている。	必要な改装を行って重度の方に合わせた居室と元々の学生寮だった時の雰囲気を残した居室が用意されてあることで、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。利用者により、自宅からの持ち込みが行われており、雰囲気づくりにも取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	2階建てなので2階にはなるべく昇降式エレベータを使用し移動がスムーズな人や階段の昇降が出来る人に住んで頂いて安全に生活が送れるよう考慮している。		